

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.11, No.2

巻頭言

テラヘルツテクノロジーフォーラム会長 萩行 正憲

初代の阪井会長が 2012 年度をもって退任され、2013 年度より会長職を拝命いたしました。初代の阪井会長が長年のご努力により築かれたフォーラムのアクティビティを堅持し、さらに発展させるという重責ですので、非力な私には荷が重すぎる気がしますが、皆様のご協力を得て何とか責任が果たせればと思います。テラヘルツテクノロジーは、基本技術や応用提案はひととおりに出そろい、いよいよ真の産業応用に向けて羽ばたく時期に来ているように感じます。このために、従来の考え方の枠を超えて新しいチャレンジができればと考えております。会長としましては、若い方々の積極的な提案を期待しております。何卒よろしくお願ひいたします。

今年度は会長交代に加えて学術情報委員長も川瀬晃道先生（名古屋大学）より、山本晃司先生（福井大学）にご担当いただくことになりました。川瀬先生にはこれまでのご尽力に感謝いたしますとともに、山本先生に学術情報委員会が担当している本「テラテク通信」やフォーラムの Web ページを通じた情報発信においてリーダーシップを取っていただけるものと期待しています。

また、阪井清美前会長が K. J. Button 賞を受賞されるという慶事もありました。授賞式はドイツのマインツで行われた IRMMW-THz2013 にて行われ（写真参照）、阪井先生は“Exploring Frontiers Between Optics And Electronics - 1950 To The Present: A Prominent Period -”と題する Plenary 講演をされたことは皆様ご存じのとおりです。この賞は IRMMW 国際会議の創設者である故 K. J. Button 博士にちなんで命名されたもので、1991 年から実施されており、赤外・ミリ波・THz 波分野では大変権威のある賞です。日本人の受賞としては 3 人目であり、フォーラムとしても日本人としても大変名誉なことであるといえます。

フォーラムの活動も 11 年目を迎えています。フォーラムはテラヘルツ波技術の産学官の連携を目指した活動を行ってまいりましたが、今後さらにテラヘルツ波技術の産業利用を加速するために、より効果的な活動と、運営の効率化を図っていきたくと考えています。本フォーラムの活動は、主として民間企業の一般会員、および学識経験者の個人会員の皆様に支えられています。今後も皆様の変わらぬご支援をお願いする次第です。



写真左： IRMMW-THz 2013 での受賞式。写真右：受賞式後に賞状と記念メダルと一緒に撮影。